

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【日高振興局】日高川町農業士会が先進地研修を実施
～(株)龍神マッシュにて菌床しいたけの栽培施設を見学～

令和7年9月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

は じ め に

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1-2
1. 重点プロジェクト【若手生産者を中心としたいちご産地の再興】 ～花芽検鏡を実施～	
2. 和海地方4Hクラブ連絡協議会が県外研修を実施	
3. 和海地方農業士会が県外研修を実施	
4. みかんづくりの進歩は続く（下津町農業士会先進地研修）	
II 那賀振興局	3
1. 重点プロジェクト【次世代を担ういちご生産者の確保・育成】 ～いちごの花芽検鏡ができる生産者を1名育成～	
2. 管内生活研究グループ協議会が先進地研修を実施	
III 伊都振興局	4
1. かき肥大調査を実施	
2. クビアカツヤカミキリ防除啓発チラシを作成	
IV 有田振興局	5-6
1. 有田地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を開催	
2. 田んぼの学校（有田市立糸我小学校）で稲刈り体験開催	
3. いちごの花芽検鏡を実施	
V 日高振興局	7-8
1. いちご苗の花芽検鏡を実施	
2. 令和7年度環境保全型農業栽培技術現地研修会を開催	
3. 日高川町農業士会が先進地研修を実施	
VI 西牟婁振興局	9-10
1. 第31回SUN・燦（さんさん）紀南農業者の集いを開催	
2. 稲成いちご研究会が育苗圃場の巡回及び意見交換会を実施	
3. 西牟婁4Hクラブ連絡協議会が視察研修を実施	
VII 東牟婁振興局	11
重点プロジェクト【いちご産地の維持活性化やる気のある産地づくり】	
1-1. ～いちご育苗ほ場現地巡回を実施～	
1-2. ～いちごの花芽分化程度を確認～	

Ⅷ 農林大学校

12

1. 大型特殊自動車（農耕車限定）運転免許試験を受験

Ⅸ 農林大学校就農支援センター

13

1. 技術修得研修（第 1 班）の営農計画発表会/閉講式

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【若手生産者を中心としたいちご産地の再興】 ～花芽検鏡を実施～

農業水産振興課では、新規参入したいちご農家の安定生産を実現し、産地化につなげるための普及活動を行っている。

いちごは花芽分化していない苗を定植すると収穫開始時期が遅くなってしまうため、定植前に花芽分化しているかを顕微鏡で確認する必要がある。経営支援課の農業革新支援専門員のアドバイスを受けながら、9月24日に新規就農者3名を含めた農家12名の41苗を確認したところ、ほとんどの苗が未分化であった。9月29日に新規就農者4名を含めた農家11名の35苗を確認したところ、分化指数が0（未分化）～2（分化期）以上のものがあり、農家によって、また、同じ農家の苗でもバラツキがあった。

今年も夏期の高温により花芽分化が例年より遅く、分化程度にもバラツキがみられ、定植を遅らせる農家が多かった。このことから10月にも花芽検鏡を実施する予定である。



花芽検鏡する普及職員

2. 和海地方4Hクラブ連絡協議会が県外研修を実施

和海地方4Hクラブ連絡協議会（会長：山下英都史氏）、海南市4Hクラブ連合会（会長：馬場晴也氏）は、温暖化に対応できる新品目を探索するため、9月9日、10日に沖縄県への視察研修を実施した。研修にはクラブ員4名と農業水産振興課職員1名が参加した。

研修では、沖縄県南部農業改良普及センター及び熱帯果樹農家、農業研究センターを視察し、熱帯・亜熱帯果樹の高品質安定栽培について説明を受けた。

クラブ員は樹体の管理や温度調整などを質問し、和海地方に導入できそうな品目についての情報を収集していた。研修後には定例会を開催し、研修に参加できなかったクラブ員にも情報を共有した。

今後は本研修で学んだことを参考に、品目を決定し栽培試験を行う予定である。



グアバについて説明を受けるクラブ員



マンゴーについて説明を受けるクラブ員

3. 和海地方農業士会が県外研修を実施

9月26日、和海地方農業士会（会長：南方一誠氏）は、大阪府泉佐野市の「JA大阪泉州農産物直売所こーたり〜な」と大阪府堺市の「アルスコーポレーション株式会社」で研修会を実施し、会員6名が参加した。

「JA大阪泉州農産物直売所こーたり〜な」では、直売所の運営状況について説明を受けた。出荷物の価格設定方法や安定した品ぞろえへの取組について会員は興味深く聞き入り、活発な質疑応答や意見交換が行われた。

「アルスコーポレーション株式会社」では、せん定鋸やせん定ばさみなどを自社工場で一貫生産しており、製造するための機械を自社開発していることなどの説明を受けた。ここでも質疑応答や意見交換が活発に行われ、刃物のメンテナンス方法やユーザー目線での商品提案などで盛り上がった。

本研修を通じて、大規模直売所の運営ノウハウ アルスコーポレーション株式会社での研修の一端と、伝統ある刃物メーカーの高品質生産へのこだわりを学ぶことができた。



JA大阪泉州農産物直売所こーたり〜なの店内



4. みかんづくりの進歩は続く（下津町農業士会先進地研修）

下津町農業士会（会長：上森培弘氏）では役員3名が出席して9月30日にみかん作りの先進事例を学ぶため、有田地方の2園地で研修を行った。

最初は湯浅町田村地区の傾斜階段園での高糖度みかんの事例を研修した。糖度13～14%のみかんを5t/10a収穫し、高単価販売しており、園主は均質な果実を得るために、樹形改造に10年費やし樹幹中心部に日が当たるよう整枝を行っていた。また、果実同士が密にならず適当な間隔となるよう摘果を行っていた。

次に有田市野地区の水田転換園での無摘果・枝吊り栽培の実践事例を見学した。糖度が11～12%の果実を10t/10a収穫しており、毎年多収とするため多量施肥と整枝せん定の技術を組み合わせ、結果母枝の確保や樹勢維持回復の葉面散布などをきめ細かく行っていた。

参加者からは「園地環境やアプローチの方法は異なるが、双方とも収益性の高いみかん作りである」、「今後も学びたい」等の感想が寄せられた。これからもみかんづくりの進歩は続く。



湯浅町田村地区の傾斜園にて



有田市野地区の水田転換園にて

Ⅱ 那賀振興局

1. 重点プロジェクト【次世代を担ういちご生産者の確保・育成】 ～いちごの花芽検鏡ができる生産者を1名育成～

那賀振興局では、いちご生産に取り組む新規就農者が多く、花芽検鏡の依頼が増加していることから、生産者自身が検鏡できるよう技術の普及を行っている。

9月10日、那賀地方いちご生産組合連合会（会長：岩鶴和昭氏）の主催により、いちごの花芽検鏡研修会が午前午後の二部制で開催され、生産者4名、紀の川アグリカレッジの研修生5名の出席があった。

研修会では、嶋本普及指導員が新たに作成した「花芽検鏡マニュアル」を用いて説明した後、モニター表示が可能な実体顕微鏡で実演を行った。

参加者からは、「マニュアルのおかげで検鏡のポイントをつかめた」と好評であった。その後、参加者は各々が検鏡に挑戦し、参加者全員が花芽指数2～6の検鏡に成功した。さらに、参加者2名が最も難易度が高い花芽指数0（未分化）の検鏡に成功した。

また、9月22日に実施した花芽検鏡では、研修会に参加した生産者1名が職員のサポートを受けながら自身の苗を検鏡した。那賀振興局では令和8年度までに花芽検鏡ができる生産者3名の育成を目標に掲げており、今後も支援を行っていく。



花芽検鏡マニュアルを用いて説明



自身の苗を検鏡する生産者（左）

2. 管内生活研究グループ協議会が先進地研修を実施

9月12日に紀の川市生活研究グループ連絡協議会（会長：坂口富子氏）が、9月16日に岩出市生活研究グループ協議会（会長：小崎育子氏）がそれぞれ先進地研修を実施した。

紀の川市生活研究グループ連絡協議会は、「伊賀の里モクモク手づくりファーム」と「道の駅クロスウェイなかまち」を視察し、24名の参加があった。モクモク手づくりファームではウインナー作り体験を行い、会員らは慣れない腸詰に苦戦しながらも完成させ、「普段購入するものより美味しくできた」と感想が聞かれた。

岩出市生活研究グループ協議会は、大阪・関西万博を視察し、23名の参加があった。各国・地域のパビリオンで伝統文化の展示等を見学した。



ウインナー作り体験

Ⅲ 伊都振興局

1. かき肥大調査を実施

農業水産振興課では、伊都管内の主要品目であるかきの生育状況を把握するため、橋本市及び九度山町内の6カ所の園地においてかきの肥大調査を行っている。

調査を開始した7月当初は平年並みの肥大状況であったが、8月以降、降雨が少なかったこともあり、平年よりもやや小さい肥大状況で推移した。また、9月に入っても高温が続いたことにより、昨年と比べて果実の着色が遅れていたが、9月下旬以降の気温の低下とともに着色が進んできている状況である。

肥大調査の結果は、県ホームページの「伊都の柿データベース」で随時更新し情報提供を行うとともに、研修会等において生産者あて情報提供を行っている。



肥大調査の様子

2. クビアカツヤカミキリ防除啓発チラシを作成

伊都地方では、すもも・もも・うめ及びさくらなどの樹木を加害する特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」による被害樹が増加している。令和7年3月末までの農地における被害樹の累積は、かつらぎ町では、746地点4,566本、橋本市では、444地点1,720本、九度山町では、11地点28本であった。

被害の早期発見と防除啓発を目的に、伊都地方農業振興協議会（構成：JAわかやま紀北地域本部、橋本市、かつらぎ町、九度山町、高野町、農業共済、伊都振興局）では、チラシを作成した。今回のチラシは、果樹に入り込んでいるクビアカツヤカミキリの幼虫を掘り取って防除し、樹自体は伐採せずに温存する「掘り取り」を中心とした内容としており、伊都地方の生産者等に配布する。

農業水産振興課では、引き続き関係機関と協力して防除啓発及び防除指導を行っている。

「クビアカツヤカミキリ」が多発しています！

○「クビアカツヤカミキリ」は、もも、すもも、うめ等を加害する特定外来生物で、幼虫は樹の内部を食い穿ち、枯死してしまうことがあります。
○令和7年に伊都地方で被害が初めて確認され、令和7年3月末までの当地方の農地の被害累計は、かつらぎ町：746地点、4,566本、橋本市：444地点、1,720本、九度山町：11地点、28本となっています。
○もも、すもも、うめ等で、ツラツラと見つけた場合は幼虫の掘り取り等による防除を、成虫を見つけた場合は捕殺してください。



【掘り取り】
○侵入した幼虫が樹の内部を食い穿ち、外部にフラス（木屑と虫糞が混ざったもの）を排出します。樹内を掘り取り、早期発見と対策を行います。
○被害の発生を確認したら、フラス排出部の樹皮をマイナスイソダイバー等で剥がし（写真1）、掘り取り（写真2）捕殺し、穴の奥には針金を挿し込み幼虫を捕殺しましょう（写真3）。
また、適宜ロビンエド等スプレー式殺虫剤の噴射による殺虫も行ってください。

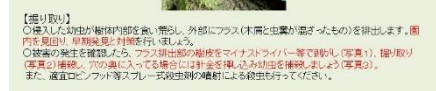


写真1 マイナスイソダイバーでの掘り取り
フラスが出ている部分にマイナスイソダイバーを挿して樹皮を剥がります。



写真2 幼虫の食入状況
（樹皮がはがれた状態）
幼虫が小さいときは、指先でつまみ取ることもできますが、中々取れない場合は、写真3のように針金で捕殺します。

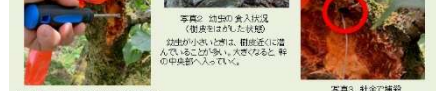


写真3 針金で捕殺
樹や樹の根の部分を掘り取り、針金を挿し込んで捕殺します。

防除啓発チラシ

Ⅳ 有田振興局

1. 有田地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を開催

9月8日、標記研修会が会員34名参加のもと開催された。企業の商品開発・販売等について学ぶため、奈良県橿原市の「ミヅホ株式会社」を訪れ、同社の大西代表取締役および工場の職人からお酢の製造工程について説明を受けながら、米酢の製造工場を見学した。

次に、奈良県天理市の「株式会社柿の葉ずし平宗 便利館」を訪れ、柿の葉寿司の歴史や柿の葉の採取・処理方法、柿の葉寿司の作り方等について説明を受けたあと、実際に柿の葉寿司作りを体験した。

参加者からは「伝統ある米酢工場の蔵の中や発酵途中の酢の樽の中を見学し大変貴重な体験ができた」「柿の葉寿司作りについては、作り方は前から知っていたが、初めて木箱に詰めるところまで体験できてとても良かった。柿の葉の採取・処理方法から教わり、勉強になった」等の感想が聞かれた。



ミヅホ株式会社の工場を見学する会員



柿の葉寿司作りを体験する会員

2. 田んぼの学校（有田市立糸我小学校）で稲刈り体験開催

糸我小学校では、糸我地区青少年育成会主催のもと、アイガモ農法による米づくりに取り組んでいる。9月26日、糸我小学校と田鶴小学校の5年生は、合同で稲刈りを行った。「田んぼの学校」の校長である山崎佳彦氏（元指導農業士）を始めとする地元農家指導のもと、鎌を使って稲刈りを行い、その後、脱穀作業も体験した。子供たちは慣れない鎌を使っての作業で、苦戦しながらも上手に刈り取ることができた。収穫した米は11月の地域イベントで一般の方に販売し、自分達が作った米をPRするとともに、2月の「芋茶がゆと餅つきの集い」で自分達が作ったもち米を使って餅つきを行う計画を立てている。



稲刈りを行う児童ら



コンバインによる脱穀作業を体験する児童ら

3. いちごの花芽検鏡を実施

農業水産振興課では、9月16日～10月1日にかけて、管内のいちご農家が持ち込んだ苗の花芽検鏡を実施した。

花芽検鏡は、顕微鏡で花芽分化のステージを観察することで、適正な定植時期を見極める大切な作業である。近年は9月の気温が平年に比べて高く、特に昨年は9月末まで高温が続き、全国的に花芽分化の遅れが顕著であった。今年も平年より気温が高い傾向にあったことから定植時期の判断を慎重に行う必要があり、再検鏡を含めて延べ6日間で108株の検鏡を行い、結果をふまえて各生産者に定植時期の目安を伝えた。

今年は昨年に比べれば概ね7日程度早く花芽分化が進んでいる傾向がみられた。今後も気温が高くなることが予想されるため、定植後のハウス内の温度が高くないように開閉を心がけること、定植後、施肥を開始する時期遅らせること等の指導を行った。



花芽検鏡の様子（9月30日）

V 日高振興局

1. いちご苗の花芽検鏡を実施

日高振興局管内では、7つのいちご生産組織で39戸（令和6年作実績）が栽培に取り組んでいる。農業水産振興課では、例年農家の要請を受けて実体顕微鏡で苗の茎頂を検鏡して花芽分化の状況を確認し、結果をフィードバックすることで定植時期の判断をサポートしている。今年は、9月4日から30日まで13戸、延べ227本（前年度271本）の検鏡を実施した。

昨年から検鏡結果を客観的に判定するため複数人で確認する体制としたことから、普及グループの職員4名が事前に研修を受講するとともに、約1か月かけて検鏡の実習を重ね、技術の向上に努めた。

今年は昨年同様の猛暑であったが、9月中下旬から夜温が下がったことから、花芽分化の進行は昨年と同程度であった。普通育苗の苗は、大半が10月初旬に定植されるとみられ、今後は、園地巡回を実施して開花状況を確認する予定である。



日高振興局での花芽検鏡（9月19日）



暖地園芸センターでの花芽検鏡（9月24日）

2. 令和7年度環境保全型農業栽培技術現地研修会を開催

9月25日、農業水産振興課はエコ農業実証モデル園に設定しているみなべ町岩代の寺垣信男氏のほ場において現地研修会を開催するとともに、みなべ町立中央公民館で意見交換会を行った。

当日は、県内各地から20名の参加者があり、現地研修会では、うめで有機農業を実践している寺垣氏から、黒星病やすす病対策として、有機JAS規格で使用が認められている農薬の散布や、無施肥栽培で樹勢を維持するため切り上げ剪定を行っているという説明があった。参加者からは、無施肥での栽培状況や収量、下草管理、販売面などについて質問があった。

また、意見交換会では、各地域での栽培状況や取組、地域での悩みについて様々な意見が交わされた。



現地研修会の様子



意見交換会の様子

3. 日高川町農業士会が先進地研修を実施

9月25日、日高川町農業士会（会長：清水俊夫氏）は、田辺市龍神村で視察研修を行った。今回の研修では、地域の特産物づくりと有利販売の手法、そして遊休農地の利活用の事例を学ぶことを目的とし、会員9名が参加した。

はじめに、株式会社龍神マッシュを訪問し、代表取締役の伊藤委代子氏に菌床しいたけ生産事業の立ち上げから販路拡大、商品開発などの事業展開について説明を受けた。

昼食は、近くの「道の駅水の郷日高川龍游」で同社のしいたけを使ったメニューをいただいた。

午後は、NPO法人 ええとこねっと龍神村の返町和直氏の案内で、地域内の休耕地をそば栽培に活用し、農地として維持する取り組みを見学した。今年度の作付面積は1.8haで作業の担い手を育てていかないと受入れ面積を増やせないなど課題もお話しいただいた。

会員からは、特産物の特性を生かしつつ、実需者のニーズに合わせていく柔軟性が有利販売につながるといった等の感想が聞かれた。



菌床しいたけの栽培施設を見学
（(株)龍神マッシュ）



開花を迎えたソバのほ場で返町氏（左端）
から説明を受ける

VI 西牟婁振興局

1. 第31回 SUN・燦（さんさん）紀南農業者の集いを開催

SUN・燦（さんさん）紀南農業者の集いは、西牟婁地方の農業者が組織・年齢・生産部門などの枠を越えて、地域農業の発展について考え、取組につなげることを目的として、農業士会・生活研究グループ・4Hクラブで構成する実行委員会が開催している。今年度は、9月10日に「経営改善！小さなことからコツコツと」をテーマとして、県情報交流センターBig・Uで実施し、3団体の会員と関係者併せて約80名が出席した。

ファームサイド株式会社代表取締役の佐川友彦氏から「農業経営改善の必要性とその進め方について」と題し、栃木県宇都宮市の阿部梨園での経営改善についての取組内容や今後の農業経営における経営改善の進め方、働きやすい農園づくりのポイントについての講演があった。また、農業水産振興課の平岩技師から農作業事故の事例紹介と熱中症対策、行森普及指導員から普及指導計画重点プロジェクト「うめの超省力枝梢管理技術と低樹高コンパクト整枝導入推進の取り組み」に関する情報提供を行った。

出席者からは、「経営改善と聞くと何から始めたらいいかわからないが、効率よく作業するために、例えば作業場を掃除する、というような身近なことから改善の積み重ねが大事ということが分かった」等の意見があった。

また、佐川講師を交えての交流会も実施し、研修会の内容等について、活発な意見交換が行われた。

当課では今後も地域農業の振興に向け、研修会等の開催を支援していく。



佐川氏の講演（経営改善の取組）



情報提供（農作業安全）

2. 稲成いちご研究会が育苗圃場の巡回及び意見交換会を実施

稲成いちご研究会（会長：宮本誠士氏）は、いちご「まりひめ」の栽培技術の高位平準化及び高品質安定生産を図るため、毎年、定植前（9月）と共同出荷前（12月）の2回、栽培圃場の巡回及び意見交換会を行っており、9月16日に研究会会員、JAわかやま営農指導員、普及指導員合わせて10名が参加した。

はじめに、会員の育苗圃場を巡回し、苗の生育や病虫害の発生状況を確認した。その後、JAわかやまの販売担当職員から令和7年度産の販売に関する説明があり、出荷用資材のメーカー変更について意見交換を行った。

続いて、農業水産振興課の谷普及指導員から、高温による花芽分化の遅れ、それに伴う花芽検鏡の時期について説明した。

当課では、今後ともJAわかやま紀南地域本部と連携し、いちご栽培技術の高位平準化や高品質安定生産に向けて、圃場の巡回調査や意見交換会で情報を共有するなど、同研究会の活動を支援していく。



現地検討会の様子

3. 西牟婁4Hクラブ連絡協議会が視察研修を実施

西牟婁4Hクラブ連絡協議会（会長：山崎昂幸氏）は、現在プロジェクトとして取り組んでいる梅の生産安定対策の一環として、うめ研究所の視察研修を9月9日に実施し、クラブ員6名が出席した。

はじめに、日比研究員より果実肥大を良好にするためのかん水方法や、令和5年、6年産のうめの不作の要因について説明を受けた。また、うめ栽培において、今後導入が進むと予想されるAIの活用方法に関する意見交換を行った。

その後、栽培圃場へ移動し、片側一文字仕立て（主幹を一定の高さで水平誘引した仕立て方）で栽培された「露茜」や、汚泥肥料を使用した試験圃場、摘心カットバック栽培の圃場を見学した。

クラブ員からは「近年の不作の要因が分かってよかった。自身の園地でも生産安定や省力化に向け、できることから改善していきたい」「AIで収穫日の予想や収量の予想ができるようになればより効率的な経営が可能になる」との意見があった。

当課では今後も、現地研修会の企画や経営支援活動を通じて、西牟婁4Hクラブの活動を支援していく。



試験圃場見学の様子（「露茜」片側一本仕立て）

Ⅶ 東牟婁振興局

重点プロジェクト【いちご産地の維持活性化やる気のある産地づくり】

1-1.～いちご育苗ほ場現地巡回を実施～

9月10日、那智勝浦町苺生産組合（会長：畑下由美氏）は、いちご「まりひめ」の栽培技術向上を図るため、育苗ほ場現地巡回を行った。

当日は、生産者9名、JAわかやま職員1名および当課1名の計12名が参加した。

はじめに、各育苗ほ場を巡回し、生産者同士で、灌水の時間や回数、施肥の状況、苗の大きさや葉の色（栄養状態）の違いについて意見交換を行い、今後の葉かきや施肥の予定を確認した。巡回後は、JAわかやまみくまの営農経済センター笹平営農指導員が生産副資材（セロハン・段ボール・フタ）の表記の変更について説明した。

今後は、花芽検鏡を行い、その結果をもとに各生産者は適期定植に取り組む。



育苗圃巡回（那智勝浦町）

1-2.～いちごの花芽分化程度を確認～

9月19日と26日に、農業水産振興課はJAわかやまみくまの地域本部と協力して、くろしお苺生産販売組合（会長：畑下由美氏）員のいちご苗の花芽分化程度を実体顕微鏡で確認した。

花芽分化程度の確認は、いちご安定生産に影響する定植時期の決定に重要である。

当日は、生産者10名から採取した苗をJAわかやま職員1名、当課職員3名が花芽分化の程度を確認した。その結果、今年は昨年よりも各苗の花芽分化が遅れている傾向があり、平年より5～10日遅れていた。

この結果をもとに生産組合は、各会員にいちごの苗を9月26日から10月1日を目安に定植するよう通知した。



花芽検鏡作業

VIII 農林大学校

1. 大型特殊自動車（農耕車限定）運転免許試験を受験

農林大学校では本校学生に対し、トラクターの運転技術習得を目的に演習を実施している。到達目標として大型特殊自動車（農耕車限定）運転免許取得を目指している。

また、道路交通法の改正で、トラクターに作業機を装着した状態で公道走行が可能となった。それに伴い、農業者の運転免許試験受験希望者も増加傾向にあるため、それに対する支援として講習会も併せて行っている。

今回、学生及び農業者が運転免許試験を受験したので、その結果を報告する。なお、本校学生及び農業者の運転免許試験受験にあたり、和歌山県警察本部交通センター運転免許試験場のご指導、ご協力をいただいた。

日 程 : 令和7年9月17日、18日、22日、24日

参 加 者 : 農林大学校1年生（13人）、農林大学校社会人研修生（1人）、
農業者（25人；内10人は就農予定者）

結 果 : 全員合格。

試験終了後、担当警察官から受験者に対し、今回の経験を忘れず引き続き法規走行に努めるよう指導があった。

受験者らは、あらためて安全運転について確認しあっていた。



使用したトラクター



学校での演習の様子

IX 農林大学校就農支援センター

1. 技術修得研修（第1班）の営農計画発表会/閉講式

9月5日、JAわかやま御坊営農販売センター（がいなポート）会議室において、技術修得研修（第1班）の営農計画発表会および閉講式を開催した。受講生は、5月から9月まで5ヶ月間（計25日）、果樹・野菜・花きの栽培管理や病害虫の防除、農業資材・機械の安全使用、パイプハウスの建設などについて、講義や実習を通じて、専門的な知識や技術を身につけてきた。

営農計画発表会では、それぞれの受講生が思い描く将来の営農目標を発表し、職員や社会人課程受講生、新規就農者実践研修受講生と意見交換を行った。

閉講式では、黒沼所長から修了生7名一人一人に修了証書が手渡され、「それぞれ規模や品目は違うが、研修で学んだことを活かし、またこの研修で知り合った仲間も大切にしながら営農計画で発表した目標に向かって頑張してほしい」と激励の言葉を贈った。



営農計画発表



修了証書授与

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489